

## 令和4年度第1回会議尼崎市スポーツ推進審議会 会議録

日時：令和5年1月31日（火）午前10時～午前11時25分

場所：教育委員会室

出席者：9人

伊藤委員（会長）、河野委員（副会長）倉地委員、佐野委員、白川委員、常行委員、徳山委員、萬代委員、若竹委員

事務局：6人

社会教育部長、スポーツ推進課長、保健体育課長、スポーツ推進課係長2名、スポーツ推進課事務員

傍聴者：なし

### 議題1 令和3年度 尼崎市スポーツ推進計画の進捗管理について

委員：基本方針1の新体力テストの測定結果について、全国との比較はどのようなか。

事務局：「あまっ子体力向上プラン」の巻末に種目別に記載している。

委員：種目にもよるが全体的に見ても兵庫県の平均値よりも低い。令和元年度までと令和3年度以降とでは算出方法が異なり実績値は下がっている。

委員：年ごとの推移など、どのような計画を立てているのか。

事務局：尼崎市が兵庫県より平均値以上となっているのが長座体前屈のみとなっている。

種目を絞って特化するのではなく全体的な体力向上を図っていく必要がある。年ごとの数値目標は掲げていないが、全体の底上げが必要だと考えている。

委員：数値目標の見直し等については中間評価時点で審議会の場で検討していく。

委員：基本方針4の各種スポーツ大会の参加者は、コロナウイルス感染症の影響で一度参加を見合わせた人が戻ってこないという現象があるのではないかと。

事務局：傾向としては令和2年度が最も数値が落ち込んでおり、令和3年度は少し回復傾向にある。春の開催である市民スポーツ祭は令和3年度も少し落ち込んでいるが、その他のマスターズ選手権大会や体育協会会長杯はイベントの開催が緩和されていた秋の開催の為、少し回復傾向にあると分析している。

しかしながら、コロナ前の数値には戻っていないため、まずはコロナ前の数値に戻すことを目標に大会の周知やPRに力を注いでいきたいと考えている。

委員：運動はするだけではなく見るスポーツとしてもPRしていくこと大事なので、トータル的なスポーツの魅力発信をしていく必要がある。

サンシビック尼崎は5か月間の全館休館をしていたが、供用再開後は100%ではないが利用者が戻ってきている。

今後は、市内の12プラザと6地区体育館でどれだけ利用者を増やし、外に出る機会を増やせるかが重要なのでそちらのPRにも力をいれて取り組む必要がある。

委員：基本方針3に琴ノ浦高校の学校開放の開始とあるが現状の利用者数は。

事務局：琴ノ浦高校は定時制高校で、開放時間は平日9:30~14:00、休日9:30~15:30までである。平日は利用者が少ない状況だが、土日は少年野球、少年サッカーの利用が多い。正確な集計は行っていないが、他の学校と比べて利用者数は3分の1ほどである。

委員：運動の楽しさを授業の中で教えることで結果的に数字として表れてくると考えており、数字を上げるために鍛えるような体育は行う方向ではない。学校教育で一番重きを置かれているのは現状、学力向上であり、朝、昼、放課後学習が推奨され時間が確保されているため、運動にかける時間が減っている。

また、1人1台タブレットを所持しているが、休み時間にタブレットを触り外にでないということに繋がっている。

市内41校が参加している市内連合体育大会が3年間中止となっていたが、今年度開催することができた。生徒や教師にとっては課題などが見つかるいい機会となっているが、負担となっているため無くしてほしいという意見もある。教育委員会で今後も継続できるよう支えてほしい。

また、熱中症予防を徹底することで各学校での休み時間の運動が制限されている。WBGTで明確に基準が数値化されているため、休み時間などの短い時間での運動でも制限をせざるを得ない状況となっている。

委員：令和3年度は市のHP上でスポーツ情報の集約に取り組んでいくとのことだが進捗状況は？

事務局：令和4年3月末に市のHPの改修を行っているので、確認をお願いしたい。

## 議題2 中学校運動部活動等の地域移行に係る取組状況について

委員：尼崎市には水泳部が17校のうち5校しかない。例えば市内高校の屋内プールを利用できるようにすることで泳げる場をつくれるのではないか。

部活動の地域移行は、課題が多くある中で整理をしたうえで優先順位をつけて取り組んでいくべき。

委員：水泳に関しては、ほとんどがスイミングスクールに所属しており大会の時だけ学校の先生が引率している。

昨年8月から実施している部活動指導補助員派遣事業では、専門的な指導力のある補助員が来ている学校では大会等での成績が上がっている。

当初、部活動補助員は12月までの実施だったが、学校からの強い要望もあり延長となっている。

地域に部活動を移行することで、部活動で指導をしたいという思いを持った教師が今後減っていく懸念がある。

また、部活動が盛り上がると学校全体が盛り上がるなど部活動の学校への貢献度

は高いため、地域移行した場合はどうなるのかと思っている。学校の名前を背負って生徒は部活動を頑張ってきたが、地域移行した後にそうしたいい文化が無くなってしまわないか。

指導力がない方に対して技術指導者招聘制度があっても、人が足りないなどの問題がある。生徒が部活動をやりたくても顧問がいない状況もあり、今後指導者を派遣してもらえる状況になると学校としてもありがたい。

地域のスポーツクラブが中体連の大会への出場が可能になるという決定を受けて、中体連としては、6月から大会が始まるため要項の変更は今後力を注いでいく。

委員：尼崎市として今後どう地域移行を進めていくかが見えてこないため、これを示してほしい。令和7年度と言わず長い目で見て進めていくべき。主体は生徒であり精力的に部活動ができないということが無いようにしっかりと準備を進めていくことが大事。

地域移行というと地域に任せてしまう印象を受けるので、学校と地域がともに取り組んでいくという仕組みづくりが必要。

委員：地域移行というと全て地域に任せるのかと受け取られるので、尼崎市では地域部活動と呼んでいる。

委員：地域部活動が始まると外部指導者は両立するのか。

事務局：令和5年度は特定のモデル校の休日の指導者を確保していく。平日については保健体育が行っている外部指導者を5名増員して進めていく。今後進めていく中で、外部指導者が、地域部活動の指導者の枠組みの中で指導していく可能性もある。

以上